

大阪市立新庄小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【現状】**

本校は、現在 18 学級(内特別支援学級 6 学級)児童数 316 名、教職員は 33 名の中規模校である。東淀川区のほぼ中心に位置し、阪急上新庄駅と隣接しており交通の便のよい地域である。

校区には古くからの街並みと新しくできたマンションが混在し、ここ数年は児童数が少しづつ増加している。地域住民の学校に対する思いは熱く強く、学校とともに取り組む行事は多い。地域の祭りや見守り隊の活動などを通し、町ぐるみで子どもを育てていくといった文化が受け継がれている。

平成 30 年度の経年調査では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に肯定的に答えた児童が 77.2% と H29 年度より 15.3 ポイント下回り、「自分にはよいところがあると思う」という質問に肯定的に答えた児童が 93.7% で H29 年度より 23.6 ポイント増加した。自己肯定感や自尊感情は育ちつつあるが、現在も学年によって大きな差がある。

知：学習意欲や学力では、ともに二極化傾向が見られる。学力の底上げを図り二極化の解消をすることが課題である。また授業の中で、自分の意見をはっきり言うことや友だちと話し合う中で自分の意見をまとめるなどの取り組みにも課題がある。

徳：上記の通り、自己肯定感や自尊感情が低い傾向がある。また、いじめ調査では、明確ないじめ事案は見つからないが、いじめにつながりかねないからかい事案などが見られる。個性を認め合う「いいとこみつけ」やたてわり班(異年齢集団)活動などでの活動を通して、仲間づくりを推進するとともに豊かな心の育成に努めている。

体：健康・体力の面では、「柔軟性」や「持久力」、「遠投力」が全国平均を下回っている。運動場が狭いということも関係しているが、期間を決めてなわとび週間などを実施し、児童が自己の健康の保持増進と積極的な体力づくりに取り組める環境づくりを行ってきている。さらに、運動場の狭さを克服した体力づくりを工夫していく必要がある。

【課題】

◇学力の向上に向けて、児童の学習意欲を維持向上させるための仕掛けづくり(家庭学習習慣の定着や I C T の活用など)を行う必要がある。

◇あいさつができる・仲間を思いやる・自尊感情を高めるなど「心の教育」を推進する必要がある。

◇児童が運動に親しめる機会や環境づくりを進める必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。

○令和 3 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。

○毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。

○毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和 3 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。

○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 2 ポイント減少させる。

○令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 2 ポイント増加させる。

○令和 3 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における立ち幅とびの平均の記録を、全国平均以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんであいさつができるているか」の項目に肯定的に答える児童の割合を高い水準に保つ。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査種目のうち、特に課題であるソフトボール投げの調査を3学期にも再度実施し、1学期の平均距離よりも、1.5m向上させる。

学校の年度目標

- 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もししくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○今年度の校内いじめアンケートによるいじめ認知件数は65件。12月末現在で62件が解消している。よって解消した割合は95.4%で95%を上回った。アンケートなどの活用により、いじめの早期発見に対する意識が高まっている。今後もいじめ解消率100%を目指し、継続した指導を行う。

○「学校のきまりを守っていますか」の項目について、学力経年調査では89.5%、校内調査では94%が肯定的に回答した。経年調査は目標の90%をわずかに上回らなかつたが、昨年度と変わらず高い水準を保っていることから、規範意識は定着していると考えられる。さらに、実践につながる取り組みを推進していく。

○暴力行為については昨年に引き続き、今年度も0件だった。不登校児童については、昨年の2名のうち1名が5月19日(水)から週1回水曜に1時間の登校ができるようになった。もう1名の児童については、関係諸機関とも連携し継続した対応を行っている。これら以外にも、病欠等の理由ではあるが不登校気味の児童がいる。登校ができるよう日々働きかけを行っている。

○あいさつについて、今年度当初のアンケートでは肯定的な回答が87.3%だった。コロナ禍で大きな声を出してのあいさつができない中、今年度末のアンケートでも87.7%と高い水準で維持することができた。今後も、児童会を中心にあいさつ週間を設けるなど挨拶に関する取り組みを継続する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○学力経年調査において、全ての学年が昨年度の標準化得点を上回ることはできなかった。しかし、正答率が市平均の7割に満たない児童は、5年生で目標の前年度より1ポイント減少の目標を達成し、正答率が市平均の2割以上上回る児童は、4・6年生で前年度より1ポイント増加の目標を達成できた。少しづつであるが、下位層児童の引き上げ、並びに上位層児童の増加という成果が出てきている。

(市平均の7割に満たない)

(市平均の2割以上)

	3年生	4年生	5年生	6年生		3年生	4年生	5年生	6年生
令和2年度	—	11.6	16.7	18.0		—	25.6	22.2	26.0
令和3年度	13.2	11.1	12.7	20.0		35.8	28.9	21.8	28.0

○話し合う活動については「できている」と肯定的に回答する児童は72.7%と昨年度の73.1%を上回ることができなかった。コロナ禍で話し合う活動に取り組みにくい現状ではあるが、授業改善・授業力向上に向け教員の研修を行い、子どもたちが主体的に話し合い活動に取り組めるよう指導していく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査種目のうち、特に課題であるソフトボール投げについて、1学期12.94m、3学期14.63mという結果となり、目標としていた1.5m向上させることができた。新庄っ子体操の中に関係のある動きを取り入れたり、運動委員会によるピッ칭ング週間を行ったりした成果である。

○学力経年調査において家庭学習で1日当たり「30分以下もしくは全くしない」という児童は昨年度20.5%から19.4%となり、1.1%減少した。各学期の「家庭学習がんばり週間」の取り組み、自主学習ノートの紹介、漢字検定に向けての取り組みなど、子どもたちが自主的に学習に取り組みやすい環境を整えてきた成果である。引き続き家庭学習の定着に向け取り組んでいく。

大阪市立新庄小学校 令和3年度 運営に関する計画

最終評価

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなか

令和3年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (令和2年度 96.4% 令和3年度 95.4%)	B
○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 (学力経年調査 令和2年度 97.2%⇒令和3年度 89.5%) (校内調査 令和2年度 98%⇒令和3年度 94%)	C
○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 (令和2年度0名 令和3年度0名)	A
○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (令和2年度0.336%増 令和3年度0%)	B
学校の年度目標	
○年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんであいさつができるているか」の項目に肯定的に答える児童の割合を高い水準に保つ。 (令和3年度当初 87.3%⇒年度末 87.7%)	B

令和3年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 定期的にアンケート等を実施して、いじめや問題行動の早期発見に努める。また、月に1回の生活指導部会や職員会議等で、いじめや問題行動、不登校など、児童の様子について教職員間で交流し、共通理解をはかる。ケースによっては、スクールカウンセラーやこども相談センター等とも連携していく。	B
指標 令和3年度末の校内調査を指標とし、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にし、暴力行為を複数回行う加害児童数、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (いじめの解消した割合：95.4%、暴力行為：0名、不登校：0%増)	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 児童朝会での講話や学級指導を行い、児童が学校のきまりや社会のルールを守ろうとする態度を身につけられるようにする。また、教職員が研修でソーシャルスキルや情報モラルを学び、学級・学年での実践に生かす。	B
指標 校内調査の「きまりを守ろうとしているか」の項目について、肯定的にとらえている児童の割合を前年度に続き高い水準に保つ。 (令和2年度 98% 令和3年度 94%)	
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 児童会を中心に「あいさつ週間」を学期に1回実施し、校内で出会う人や地域の人に対するあいさつができるようとする。	B
指標 年度当初と年度末に実施する校内調査において、「校内で自分からすすんであいさつができるか」の項目に肯定的に答える児童の割合を前年度に続き高い水準に保つ。 (令和2年度当初 93%⇒年度末 93%) (令和3年度当初 87.3%⇒年度末 87.7%)	

令和3年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①生活指導部会や職員会議でいじめや問題行動、不登校など児童の様子について共通理解を図ることができた。共通理解をすることで、複数の教職員で児童を見守る体制ができる。
- ②数値は高く示されているが、実際子どもたちの様子を見ていると身だしなみが乱れたり、運動場の使い方が間違っていたりすることが気になる。
- ③自分からあいさつをする児童が増えてきているように感じる。あいさつ振り返りカードであいさつをしようと意識している児童が多かった。

次年度へ向けての改善点

- ①欠席の増えている児童が増えてきており、その内容も多様なため対応が難しい。担任だけでなく、学校全体の対応や関係諸機関などとの連携が必要不可欠である。
- ②きまりを守ろうとする意識はあるが、実際には守っていない児童もいる。特に1階の廊下歩行については改善が必要であるように感じる。
- ③今年度に引き続き、児童会を中心においさつ週間などで、あいさつをする機会を増やす。また教員側からも積極的に挨拶をすることを心掛ける。(手話や会釈など)

大阪市立新庄小学校 令和3年度 運営に関する計画

最終評価

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなか

令和3年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (令和3年度 4年：101.2⇒100.5 5年 99.6⇒100.0 6年 100.1⇒99.3)</p> <p>○令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 (令和3年度 4年：11.6⇒11.1 5年 16.7⇒12.7 6年 18.0⇒20.0)</p> <p>○令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 (令和3年度 4年：25.6⇒28.9 5年 22.2⇒21.8 6年 26.0⇒28.0)</p> <p>○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 (令和2年度 73.1%⇒令和3年度 72.7%)</p> <p>○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査種目のうち、特に課題であるソフトボール投げの調査を3学期にも再度実施し、1学期の平均距離よりも1.5m向上させる。 (令和3年度 1学期：12.94m⇒3学期：14.63 m)</p>	C C C C B
<p>学校の年度目標</p> <p>○令和3年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。 (令和2年度 20.5%⇒令和3年度 19.4%)</p>	B

令和3年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 本年度の校内研究を中心に、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業研究に取り組み、学力向上をめざす。	
指標 年間実施計画どおり、授業研究に取り組み、令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 （令和3年度 4年 101.2⇒100.5 5年 99.6⇒100.0 6年 100.1⇒99.3）	B
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 これまで取り組んできた「新庄っ子体操」や「新庄っ子体操ストレッチバージョン」に取り組む。また、全校あげての体力づくりや、児童の考えたアイデア等、委員会活動による呼びかけを行い、児童が自主的に取り組める活動を工夫する。	B
指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、特に課題であるソフトボール投げの調査を3学期にも再度実施し、1学期の平均距離よりも、1.5m向上させる。 （令和3年度1学期：12.94m⇒3学期：14.63m 1.69m向上）	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習週間を設定し、全学年で、学年に応じた家庭学習と自学自習の習慣化に取り組む。その際、保護者PTAや進学先中学校とも組織的に連携する。	
指標 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外にふだん1日あたりどれくらいの時間、勉強していますか」の項目について、「30分以下もしくは全くしない」と答える児童の割合を前年度より減少させる。 （令和2年度 20.5%⇒令和3年度 19.4%）	B
令和3年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①計画通りに研究授業を行うことができた。今年度もコロナ禍で対話的な学習が難しい場面もあったが、今できる学習の方法を工夫して、主体的に学ぶ意欲を向上させることができた。 ②新庄っ子体操を継続して取り組むことができた。また、体育の授業やピッ칭ング週間などの取り組みにより、ソフトボール投げの記録が向上した。 ③家庭学習がんばり週間が定着てきて、意欲的に家庭学習に取り組む児童が多かった。	
次年度へ向けての改善点	
①今後も研修を重ね、状況に応じた主体的・対話的な学習の方法を工夫していく。 ②新庄っ子体操や、新庄っ子体操ストレッチバージョンについて、指導のポイントなど取り組み方の共通理解を図る。また、ピッ칭ング週間のような遊びの中から運動に取り組むことができる活動を工夫し、運動能力の向上に努める。 ③家庭学習がんばり週間や自学ノートの紹介を続けていく。その中で、家庭学習が定着しない児童やその保護者への働きかけについて考えていく。	